



FUKUOKA  
FOREIGN  
TRADE  
ASSOCIATION

秋

第39号

# 福貿ニュース

福岡貿易会情報誌

## 福貿グローバル塾 スタート!



セミナー風景



グローバル塾開講

世界で活躍できる国際人材を輩出するための弊会の目玉講座「福貿グローバル塾」が9月7日開講した。今後12月14日まで続く全15回の連続講座のスタートである。福貿グローバル塾開催にあたって、様々に検討を進めてきた。やはり本セミナーを開催するに至った趣旨としては、国際ビジネスに興味はあるが、まだまだそこへ手を出せていない方、これからやっという志のある方への体系的な学習の場が、いま現在福岡にはなかなか見つからないということであった。もちろんビジネススクール等、高度な学びの場はいくらでもある。しかしそういった場所は難易度的にも、費用的にも、かなり敷居が高い。福貿グローバル塾はその間を埋めるべく、またそういった方々のモチベーション創出の場として、より高度な国際ビジネスの舞台への橋渡しとなる講座となることを目的としている。そこで募集に当たっても現在国際ビジネスに関わっている企業家、個人、グローバルな知見を身につけたい学生、その他意欲的にグローバルビジネスへ関わりたい方を中心に募集した。結果的に当初20名としていた募集人数を大きく上回る応募があり、最終的に26名での講座スタートとなった。今回受講生の方々は、受講動機も様々である。また企業人の方だけでなく、日本人1名、中国人1名、ベトナム人1名の計3名の学生も受講生に迎え、また業種や背景もバリエーション豊かとなった。

初回講座では、少々窮屈な福岡貿易会事務室にモチベーションの高い受講生の方々が集まり、熱気ムンムンな中の講座スタートとなった。土屋塾長の開塾の挨拶から始まり、弊会専務理事甲斐、福岡貿易会アドバイザー矢幡先生のお話しへと続く。お二人の講義を聞く受講生の眼差しは真剣そのもの。お二人の、受講生への、果ては、これからは担う福岡のグローバルビジネスマンへの思いは、ご自身の経験に裏打ちされた迫力のあるもので、受講生の方々へ響いたことと思う。続いて初日講座の2時限目は受講生同士でのグループワーク講座である。今回、講師を招いての座学講座だけでなく、「グローバルビジネスプランワークショップ」と題した全3回のグルー

ワーキングも講座日程へ盛り込んだ。全体のオーガナイザーとして、福岡貿易会アドバイザーでもある小林修先生をお迎えし、本グループワークの取り纏めを担って頂いている。初回のグループワークではまず、「越境EC」など受講生同士共通するビジネステーマごとにグループに分かれ、そこからより明確なグループワークのテーマを導き出す作業となる。初回講座のため、受講生同士、もう少し慎重なディスカッションとなるかと考えていたが、いざグループワークが始まると、どのグループでも白熱した意見の出し合いが繰り広げられた。やはり、国際舞台での活躍を目指す方々はこういった場でも一味違うな、と主催側の予想を良い意味で裏切って頂いた。そして導かれたテーマはそれぞれアジアからアメリカ、アフリカまでをカバーしたユニークなビジネステーマばかりで、これをグループワークの集大成である最終回のビジネスプラン発表へつなげていくのだが、今後の展開が非常に楽しみなものとなった。

この記事を書いている時点で、この福貿グローバル塾は第4回の講座を終えている。第2回では大阪のグローバル人材育成センターの仙波慶子氏、第4回では中矢一虎法務事務所から中矢一虎氏をお迎えし、それぞれ「世界と渡り合うコミュニケーション」、「グローバル営業を成功させる秘訣」と題してお話し頂いた。仙波氏も中矢氏も福岡貿易会のセミナーでお話し頂く機会も多いが、こういった連続講座の中でお話し頂くのは初めてである。受講生同士もある程度仲が深まっている中で、講師と受講生、または受講生同士のコミュニケーションを図りながら講義を進めて頂いたこともあり、お二人の昼間講座とはまた一味違った雰囲気となった。

また2回目のグループワークセッションも終わっており、それぞれのグループはいよいよ、一旦の成果物を作成する段階に入っている。

今回のグローバル塾を進めるに当たって特筆すべきはもう一点ある。それは情報ツール、ITツールの利用である。もうすでに終えた講座であるが、「海外情報取得に必須、PC検索法」と題して、ITツールの利用の方法を学ぶ講座を設けた。小林先生の多大なご協力のもと、受講生に、データマイニングツールなどを使いながら、莫大な情報の大海原から自身のビジネスに必要な情報を入手する方法について学んで頂いた。1時間の講座では伝えきれない部分もあったかと思うが、情報技術の利用が今後のビジネスに欠かせなくなってくるということが受講生の印象に残ったかもしれない。また、我々主催側も手探りながら、今回のグローバル塾の学習サイトを設け、講義資料の閲覧など、少しでも受講し易い環境を構築した。(本サイトは(株)正興電機製作所殿および小林先生の多大なご協力のもと設けるに至った。)講座を運営する側も、情報技術の利用は避けられない時代に入っており、これは今後含めて弊会の課題としたい。

いずれにしても、今後12月まで続く福貿グローバル塾で、様々なご経験をお持ちの方々にご登壇を頂く。本当に多種多様である。その中で、受講生の方々に、数多くの学び・気づきの場を提供できれば幸いである。またセミナーからだけではなく、受講生同士のネットワークからまた新たなビジネスの芽が生まれてくるのではないかと考えている。これだけ志の高い方々が集まっているので、相互に作用しあい、この福貿グローバル塾の中だけに留まらないビジネスの力を、この福岡から生み出して頂ければ嬉しい限りである。

## 海外事情セミナー

フィリピン新ステージ もう遅い? まだ間に合う! 沸騰する1億人新市場の可能性」開催

7月28日(木)、ジェトロ福岡との共催で開催した今回のセミナーには、貿易、商社、物流から、食品、機械などの製造業、IT、外食、法律などのサービス業まで、多様な分野から80名近い皆様にご参加いただいた。

第1部では、まず、ジェトロ海外調査部アジア太平洋州課、和田周様から、「フィリピンの経済動向と日系企業の動き」と題し、フィリピンの概況とともに、ドゥテルテ新政権の決意表明や基本政策などの最新情報、順調に伸びる経済動向、拡大する消費市場や、日系企業の進出動向の詳細など、膨大なデータやグラフにより詳説いただいた。次にフィリピンの投資環境とビジネス機会について、駐日フィリピン共和国大使館 投資アドバイザーの堀内健助様よりご講演いただいた。今回は、「フィリピンの経済特区における投資の機会」と題し、フィリピン経済区庁(PEZA)による投資促進や輸出創出のための様々な取り組みについてお話いただいたが、特にフィリピン全土になんと343ヶ所もあると言うPEZA管轄下の経済特区では、法人税の免税、設備・原材料の関税ゼロ、生産物国内販売も可能、全ての国内調達に係る付加価値税や地方税などの免除等といった数多くのインセンティブや、各種行政サービス等について充実した情報提供であった。

第2部では、まず、フィリピン航空会社福岡支店支店長、岡村善行様に、フィリピン航空の概要とその貨物の詳細や、財閥の強さ、隆盛を極めるSNS等フィリピンビジネスの特徴などを、外資系のフィリピン企業での貴重な勤務経験を通して得た知識を交えながらご披露いただいた。そして(株)G-netファ-

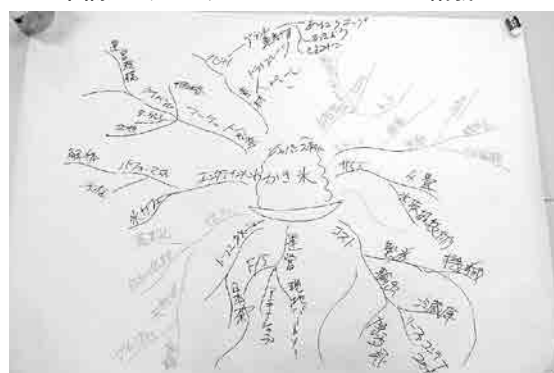
ストイングリッシュ留学事業部マネージャー: 渡辺恭子様からは、フィリピン留学の歴史から、その特徴、超短期から長期まで、ゴルフ・ダイビング留学から企業・学校研修まで幅広い留学スタイルについて紹介いただいた。続く「フィリピンにおけるIT産業と高度人材」では、正興ITソリューションフィリピン社社長、福原明浩様に、フィリピンで立ち上げた現地法人の代表として16年間の経験を有し、28人のフィリピン人を雇用中という、豊富な経験に基づき、フィリピンの会社事情や、文化や慣習の特徴などについて説得力を持って語って頂いた。フィリピン人の長所から短所まで、ここだけで聞ける本音トークから、自ら会社を立ち上げ運営しているからこそ出来る、進出企業へのアドバイスなど、リアルで参考になる話題満載だった。最後が、福岡県に拠点を置く、ワイエスフード(株)海外事業部長、亀田道彦様による「アジアにおける日本の外食産業の現在」。タイ、中国、インドネシアそしてフィリピン、イギリスと、アジアを中心に海外展開を加速するワイエスフード(株)は、フィリピンでは、シンガポールの商談会をきっかけに、ラーメンブームに目をつけた米国資本のフランチャイズ企業との契約がまとまり、今やマニラだけでも高級ラーメン店を8店舗出店している。同社は、海外進出のメリット、デメリットを知り尽くした上で、フランチャイズライセンス契約等を実施。また実体験に基づく様々な課題・リスクについてもお話いただき、これから進出する企業にとっても極めて有用な内容であった。セミナー終了後の交流会にも、多くの参加者が集まり、セミナーでは聞けない裏話などで、花が咲いた。



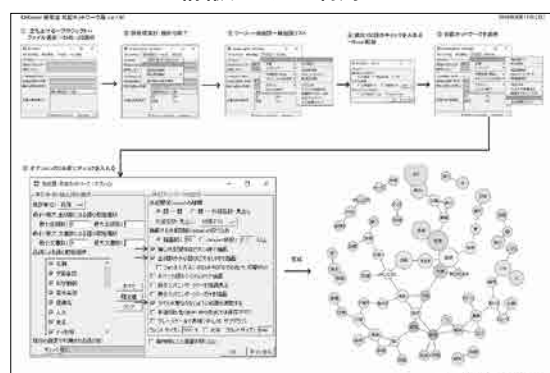
国際コミュニケーションについての講義



情報ツールの利用



グループワーキング (マインドマップ作成)



情報分析ツール (KHコーダーを使用)



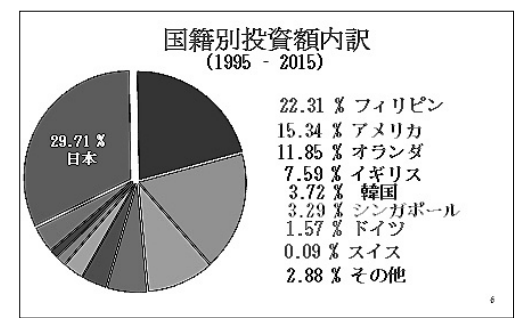
セミナーの様様 (フィリピン航空岡村様)



名刺交換・交流会



プレゼン資料 (ジェトロ和田様)



プレゼン資料 (フィリピン大使館堀内様)



●福岡→バンコク→ホーチミン→明るい未来？

地方銀行である福岡銀行がホーチミンに駐在員事務所を設けることになった。その開所セレモニーへの出席を主な目的に、またこの機会に、成熟著しい東南アジアの経済状況・社会状況を調査するため、バンコクを経由し、東南アジアの様々な企業や経済団体などの話を聞き、また、実体験を通じて社会・経済の現状を体感した。今回はその訪問で強く感じた、未曾有のパワーと未来への希望をお伝えしたい。

●成熟したアジアの先進国際都市バンコクはいずこへ？

相変わらず暑い。福岡も暑いがこちらはさらにあらゆる意味であついで。僕が前回この地を訪れたのは、もう5年以上は前だったと思うが、その時も想像以上に発展していた風景、特に新しくなった国際空港から夜の高速道路を眺めた景観が、ちょうど、映画「惑星ソラリス」で、当時世界の大国だったソ連の巨匠アンドレイ・タルコフスキーが日本の首都高速道路を、いかにも近未来的な



高層ビルが建ち並び、大規模なショッピングモールでは、世界中の商品が何でも揃う。今やアジアの大都市となったバンコク。



4 オフィスビルは、IDが無ければ、エレベーターにも乗れない最先端のセキュリティシステム。ビルからの眺めはニューヨークさながら。巨大デパートには高級レストランだけでなく、日本の半額以下で満足できる格安のフードコートもある。



複数のカフェやレストラン、焼ききたパンのベーカリー、そして部屋に備えられたメニュー。これは全て病院の中だ。サミティベト病院は完全な企業体で、医師もこの会社に使用料を払う顧客。料金設定も医師毎に異なり完全な競争。最先端の設備を備え、日本人スタッフも数多く安心の体制だ。

イメージで捕らえたシーンとダブったものだ。今やいっぴしの先進国民となった僕にも、当時のタルコフスキーが東京に感じたがごとく、タイの高速の夜景は、未来都市のように映ったのだ。そして今回、僕が見たバンコクの姿は、もはや日本の一地方都市、福岡など遠く及ばないほどに、発展し、(行ったことはないけれど)まるでアジアのマンハッタン、セントラルパークとも思える場所となっていた。それはもう、夢のSF映画ではなく、あくまでも現実として、目の前にあった。具体的には、どんな国の食材でも多種多様な品ぞろえでしかも、美しくディスプレイされた、豪華なショッピングモールのフードコートや食品売場の充実度であり、また、訪問した日系企業や経済団体の高層ビルの、最先端のセキュリティシステムや、洒落たオフィスからの眺め、豊かな緑にあふれた美しい公園の風景、そして道行く人々のダイバーシティ、世界中からこの地に訪れて来る様々な人々の姿だ。もうバンコクは僕らの想像を超えた、正真正銘の国際都市、メトロポリスになろうとしているように見えた。そう香港やシンガポールが、その地政学的な要因や、経済的、社会的に特異なポジションによって、突出した国際都市と変貌してきたように、次はアジアの中で、ある意味最も安定し成熟した状態にあるこのタイの大都市バンコクが、アジアビジネスの一大拠点として明らかに、浮かび上がってきている。

●日本のアジア展開の要

今や上海に次ぐ、日本人コミュニティーが出来上がったバンコク。実は経済成長率だけを見ると、かなり鈍化しており、極端な高齢化の進展など不安要素も多く、またご承知の通り政治的にも不安定なのだが、それにも関わらず未だに日本からの進出企業が増えているという。今回訪問したバンコク日本商工会議所の会員も増加中であるらしい。もちろんその最大要因の一つは、中国経済の減速と、日中の政治・社会的対立問題だ。逆に言うと、このタイ王国における、親日感情は本当に申し訳ないほどに良く、この目に見えない感情というのが、いかにビジネスを行う上でも役に立つか、重要な要素となるかとい



洗練された高層ビルから一歩裏通りに入っただけで、こんなエリアが広がる。くず鉄等のスクラップ屋、薄暗い激安な飲食店等がゴミゴミとひしめきあう。オフィスビルや病院で見かける人々と明らかに異なる層の住民が行き交っている。(バンコク)

うことだ。もちろん、時間をかけて整備されていた、数々のインフラ、例えば高架鉄道やバス路線、国際空港、高速道路、電気・水道等に加え、今回訪問調査した日本人専用窓口のある設備の充実した病院や、日本人向けも含めた各種飲食店、食材から日用品までなんでもそろそろショッピングセンター等、先進国でもなかなか敵わない程の日本人向け環境が整っている。特に商業施設や医療設備に関しては、日本の地方都市よりよほど優れていると感じた。それに加えて、おそらく企業として魅力的なのがコストの低さだ。今回訪問したオフィスビルの家賃を訪ねた所、驚くほど安い。また生活費についても、ある程度現地に溶け込むことで、食費や交通費などの生活費もかなりセーブ出来る。これは香港やシンガポール、そして近年の上海に比較しても桁違いの低コストとなるだろう。もちろん低賃金の非熟練労働者を多数必要とするような、繊維・服飾業等の工場については、その多くが、中国から、ミャンマーやバングラデシュなどに移っているわけだが、すでに賃金レベルがかなり上がっているこのエリアでは、一定以上の教育レベルを必要とするエンジニアやIT技術者、さらには会計士やコンサル、法律家や研究者など、より高度な産業分野にシフトしていくことが期待されている。もちろんタイ王国の実態としては、首都から離れると、まだまだほとんどが農業従事者であり、低所得層が多く、今後益々経済格差の問題が拡大していくことは避けられないだろう。バンコクにお



バイクはここでは4人乗りまで大丈夫。ほとんどのエリアは、こんな感じで、今後2,30年でまだまだ大きく発展するだろう。そして4人乗りのバイクも徐々に自動車に入れ替わって行くだろう。(ホーチミン)

●マイペンライ、バンコクなのか？

日本企業にとって、今やバンコクは最も重要なアジア拠点となっていることは、間違いのない。香港が英国を中心とした欧米圏と中国に、シンガポールも欧米の進出が目覚ましい中で、タイ・バンコクはアセアン最大の日本進出拠点であり、タイにとっても日本は最大のパートナー国となった。今後さらに、両国の交流が進展していけば、成熟を極める自動車産業や電気業界だけでなく、現在進行中の

各種インフラの整備や食品、農産品、そして今後は医療、薬品、研究などの高度知識産業の分野でも密接な関係が築かれていくことが大いに期待できる。アジアで最も密接に連携・交流を深め、成熟させていくべきエリアであろう。

●喧噪の暴走族国家ベトナムは天まで届くのか？

ホーチミンも前回の訪問から10年近くたったのだろうか。その時は、なんともまあ町中がゆるゆるのおっとり暴走族のバイクで溢れ、素人の道路横断なんて、ままたらなような、とにかくそんな、鯛の群れのバイク集団におののいた。そして今回、そのバイクの勢力が衰えた代わりに、多くの自動車が、しかもレクサスのような高級車までもが走るようになっていた。そしてなんと信号機なんかも増えて、まだまだ数少ないが素人でも轢かれる怖れなく渡れる横断歩道も発見。日本が停滞していた間も、世界は確実に変わっていたのだ！福銀のセレモニー会場は、ホテル日航ホーチミンの、最大の会場の様で、当初は大丈夫かと心配になったが、始めてみると、250人ものゲストで溢れかえった。九州・福岡のこの地域への注目度合いがうかがえる、熱気あふれる会となった。翌日、ホーチミン市民の誇りとなっている、ドバイの七つ星ホテルのミニ版のような、高層ビルから街を見下ろすと、現在工事中の、そして、これから開発される予定の広大なエリアが、サイゴン川向かいに開けており、ああ本当にこの町は、これから20年ほどで一気になんか変わっていくのだからなあ、と言う実感を。自分が若ければ、こんなところでビジネスをすればあらゆる可能性がありそうだなあ。そんな無意味な想像が頭をよぎる。街を歩けば、まだまだ歩道も信号も少なく、おんぼろな食堂や商店が立ち並ぶ。一方で高級ブティックや瀟洒なカフェ、欧米資本のブランドが連なるエリアが次々に出現している。まだまだ貧しい市民も、どんどん上昇する収入への希望で、次々と目新しい商品を買って求め、結構高価だが、かなりまがいの物の寿司にも喜んで大金を払う。まさに日本にもあった、高度成長期がいまここで展開されようとしている。すでにある意味で天国とそして今や煉獄を経験している、僕らだからこそ、この国で出来ること。ぼろ儲けだけではなく、我が国のそしてアジアの将来にとってプラスになることがまだまだたくさんある、そんな希望と可能性を感じた4日間だった。街の誇りの高層ビルからは、回りに建設中の多くの高層ビルと、対岸で開拓中の大規模な開発エリアが望める。数年で一気に景観が変わっていくのだから。街やビルを建設する前に護岸工事をした方がいいと思うが。(ホーチミン)





福岡貿易会 甲斐 敏洋

7月12、13日中国江蘇省塩城市にて「第15回環黄海經濟・技術交流會議」が開催され、九州から九州經濟産業局・岸本局長、九州經濟連合会・麻生会長を団長とするミッション団60数名が参加しました。環黄海經濟・技術交流會議は東アジア・環黄海地域の発展と交流の深化を目指す「一大国際フォーラム」として、3国政府(日本：九州經濟産業局、韓国：産業通商資源部、中国：商務部)によるコミットのもと2001年にスタートし、年1度九州・韓国・中国の持ち回りで、3国の産学官関係者が一堂に集い開催されています。来年は鹿児島市での開催予定です。

今年の開催地江蘇省・塩城市は日本になじみの薄い都市ですが、江蘇省の北東部にあり、上海市から北西約280kmに位置し、東側は黄海に面した臨海都市で、江蘇省と山東省の境に位置するチャイナランドブリッジの起点・連雲港と上海の中間に位置しています。人口は812万人で、沿岸部は毎年大量の土砂が堆積し、1年に十数km広がっているとのことで、丹頂鶴をはじめ多くの渡り鳥の休息地となっているとのことでした。

7月13日の會議は午前中「代表者會議(3国間局長會議)」「ビジネスフォーラム」「産業パーク・特区協力フォーラム」「産学官連携学長フォーラム」と各ブロックに分かれ、午後からは出席者全員を一堂に集めた「全体會議」という流れで進められました。

今回の環黄海會議では「ビジネスフォーラム」で福岡貿易会・小林修アドバイザーが「国際電子ビジネスの現状及び課題」について、「産業パーク・特区協力フォーラム」で上海事務所・奥田所長が福岡市代表として「福岡市の国家戦略特区」について発表されました。

小林アドバイザーは先ず圧倒的に拡大していく中

国の越境EC市場について説明し、今後中日越境ECが拡大する条件として、食品、すなわち加工食品の問題点を取り上げました。「中日で異なる安全評価システムを共通化できないか」「日本の認証をもって中国での許認可ができるようにできないか」との問題提起をされ、そうなれば日本の地方・とりわけ九州の優秀な食品メーカー、健康食品メーカーが積極的に中国の越境ECに取り組めるようになり、「食と健康」をキーワードとする、中日ビジネスの拡大が両国民の相互理解への貢献が大きい。と発表されました。出席者から講演内容が素晴らしかったとの評価を得ていました。特に納豆や発酵食品等日本食品の効能と中国の漢方の積極的活用、とりわけ漢方分野では中日が緊密に協力したバリューチェーンが世界に拡大するとの話は本当に驚きました。

一方「産業パーク・特区協力フォーラム」では福岡市の他に、中国から塩城市、上海市、煙台市の開発区、韓国から新万金開発区、大邱開発区の紹介がありました。中国側と韓国側の開発区については、依然として広大な土地を工業用地に整備し、周辺にホテルや商業施設、学校、病院などの都市生活施設を配備して、新たなる街を建設するという内容の発表でしたが、旧態依然とした開発区の整備は、今後厳しくなるものと考えられます。それに対して奥田所長が発表した、福岡市の特区に対する取り組みは、街を新たに作る、というよりも、街に新たな価値を与えるという方向であり、中韓の開発区とは一線を画したものであり、数十年後、こうした福岡市の取り組みの方向が変わっていくのであらうと感じました。奥田所長には中国サイドから「福岡市の発表が一番スマートだった」とのお褒めの言葉を頂いたとのことでした。



会場の塩城迎賓館



発表中の奥田所長



12日の塩城市、企業視察と13日會議終了後の交流会



発表中の小林アドバイザー



## 「なぜ騙される?! 国際ビジネス」

福岡貿易会 国際ビジネスアドバイザー

弁護士 山上 祥吾

「あの会社の社長とは友だちだから大丈夫!」御社の国際ビジネスでも、そう思っていないませんか?ところが、実際には、国際ビジネスでは数多くのトラブルが起きており、中には、「騙された!」と言ってよい案件も少なくありません。

法律家としての立場からは、「騙されない国際ビジネス」のために重要なことは、(1)明確な文書の作成、(2)法令の遵守の2点であると考えます。

まず、(1)「明確な文書の作成」ですが、①契約書の作成のみならず、日頃のやりとりも電話を避けメールで行い、また會議は議事録を作成して双方が署名するなど、すべて文書にすることが必要です。もし文書がないと、トラブルが起きた時、裁判では証言しかないこととなりますが、証言はただでさえ信用されない上に、外国の裁判所で証人になる方の負担は相当なものがあります。録音という方法も考えられますが、録音は日本では証拠として使えるものの、国によっては証拠として使えない可能性があります。

また、②契約書についても、外国企業が提案してくる案は、内容を慎重に確認することが必要です。欧米企業には弁護士がついて、しっかりした契約書を作ってくるというイメージがありますが、そんなことはなく、意味不明の契約書であることがよくあります。そのような契約書は、そのままサインしてしまうと、トラブルが起きたときに何もできない可能性があります。普通に読んで意味が分からない契約書は、契約書の内容が難しいのではなく、契約書自体に不備があると考えた方が無難です。さらに、③契約書では、どこの国の法律を使うのか(準拠法)と、どこの国で解決するのか(紛争解決条項)が意外と重要であり、取引の内容に応じて、戦略を考える必要があります。

次に、(2)の「法令の遵守」ですが、①相手方や現地スタッフから、日本国内の取引では通常やらないようなことを提案された場合、それを鵜呑みにせず、専門家に意見を聞くことをお勧めします。「うちの国ではみんなこうしている」というのは全くあてになりません。典型的な例としては、賄賂や、その他にも、正式な現地子会社の設立の手續が面倒であることから、現地人の名義を借りて、現地人の名義で会社を設立してもらい、現地人には金銭を貸し付けるという方法などが考えられますが、こうした手段をとってしまうと、後にトラブルになった場合、法律では助けてもらえない(訴訟をしても勝てない)可能性が高くなります。次に、②現地法人の運営にあたっては、現地スタッフに丸投げせず、現地での監督役を付けることが望ましいといえます。例えば、社内の外国人スタッフを信用して外国現地法人の社長に起用したところ、「資金が足りないので送金して欲しい」などと言うようになり、相当な金額を送金させられたケースがあります。現地に監督役がいれば、取引内容や支出をチェックすることができますので、こうしたトラブルを防ぐことができる可能性があります。③商品が輸入される国の商標や特許等の知的財産権に気を付ける必要があります。例えば、自社製品を外国に輸入しようとしたら、自社製品の商標が、その国で他人に商標登録されているというケースがあり、そのような場合、商標を取り返すには多大な労力が必要となります。そのため、日本で商標を登録する際に、商圏となる可能性がある国では、商標を登録しておいた方が無難です。日本で商標を登録すると、特許庁のホームページで検索できるようになるため、外国で勝手に登録されるリスクが上がります。いずれにしても、少しでも疑問がありましたら、当会にご相談されることをお勧めします。



**山上 祥吾**  
 弁護士法人 山上国際法律事務所  
 代表弁護士・弁理士

- \*経歴：2002年 弁護士登録
- 2008年 弁理士登録
- 2009年 山上国際法律事務所設立
- 2011年 東京事務所設立
- \*分野：国際契約、M&A、知的財産権訴訟  
 国際相続・国際離婚等



# 上海通信

## 上海で「九州マンス」を開催

少し報告時期が遅れてしまいましたが、2016年6月に上海で「九州マンス」という活動を行いました。これは、上海にある九州の自治体事務所等が協力し企画したもので、上海で「九州」という名前を浸透させようというイベントです。

開幕となる6月1日には、上海で各県がそれぞれ別々に行っている「県人会」を集結させ、上海在住の九州人約200名が参加した交流イベント「大九州人会」を開催しました。イベントでは、九州各地の映像放映を始め、クイズ大会や、熊本地震に対する義援金の贈呈などを行いました。

更に、6月1日～30日の一か月間、上海高島屋と共催で「うまか九州まつり」を実施。これは、上海市内にある九州に縁のある日本料理店16店舗にご協力いただき、1か月間限定の特別郷土料理の提供や、割引サービスなどを行ってもらうというものです。参加者には、パスポートブックを配布。パスポートブックには店舗と料理の情報の他、九州各地の観光地情報を掲載しています。更に、一つの料理を食べる度にスタンプがたまる、スタンプラリー方式になっており、各県ごとに分けられたスタンプを集めると、上海高島屋にて抽選に参加できるという形になっています。1か月の間に延べ1200名の方にご参加いただき、上海の各地で九州料理を楽しんでもらいました。

また、6月16日から27日にかけて「上海高島屋」で、6月16日から7月6日にかけて「シティスーパー」で、それぞれ九州をテーマにした物産展を開催してもらいました。ここでは、一部メーカーにも訪申していただき、実演販売なども交えて九州から選りすぐられた食品の数々が販売され、訪れた方々に楽しんでいただきました。

更に、4月に発生した熊本地震の復興支援のため、在上海日本総領事館などの協力のもと、6月19日には、領

上海代表処 所長

### 奥田 聖



事館の多目的ホールで「熊本地震復興支援イベント～頑張れ熊本・大分、ありがとう中国！～」を開催。旅行関係者や報道関係者や一般募集で集まった約150名に対して、九州観光の現状をお伝えした他、熊本地震に対して大口の寄付をしていただいた上海の各企業団体等に総領事から感謝状を贈呈しました。九州経済連合会と福岡市で三者MOUを締結している上海の経済団体・新滬商連合会からは、九州の復興のためにと100万円（約1500万円）の義援金の贈呈を受けました。

その他、大小さまざまな九州関連のイベントを6月に集中させる。上海各地で「九州」の名前に触れる機会を増やす。これが「九州マンス」でやりたかったことです。現在、九州を訪れる中国人観光客数は増加を続けています。外国人に向けたインバウンド戦略と国内向けのインバウンド戦略は異なります。東京や大阪などの方を対象にするなら、地域ごとのピンポイントのブランディングを行うことで、1泊2日や2泊3日などのプランで訪れる観光客が増えるかもしれません。しかし、海外からくる観光客は違います。必ず周遊をします。中国から福岡空港に降り立っても、九州の各地の観光地をまわって帰国します。帰国後、友人には「九州に行って、九州で美味しいものを食べ、九州で遊んで帰ってきた」と報告していることでしょう。そうであれば、それぞれの地域の魅力を伝えるのと同時に、「九州」という固有名詞そのものの存在感を強くする。全体のパイを大きくし、結果的に恩恵を受ける地域を増やす、という方法が今後より一層重要になってくるでしょう。その結果「九州の食はおいしい」というイメージが形成されれば、結果的に九州産の全ての商材に輸出促進のチャンスが広がるはずです。九州のほぼ全ての県・政令市の事務所が集まる上海では、そうした活動が普段から行われています。



## 新会員のご紹介

### 玄海サイロ株式会社

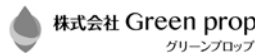
代表者：代表取締役社長 和田 裕二  
所在地：〒810-0071 福岡市中央区那の津5丁目9-31  
TEL：092-751-5561  
FAX：092-751-5592  
主要業務：倉庫業・貨物自動車運送  
取扱事業・内航運送取扱事業



当社の特色：1970年の創業以来、北部九州の穀物物流拠点である博多港須崎埠頭地区において、一貫して基幹食料である穀物の保管・物流に特化したサイロ業を生業としています。国内外で生産される穀物の市場への安定供給に寄与すると共に、近年関心が高まる「食の安全安心」に対する顧客の要望に応えるべく、日々業務品質のレベル向上を図っています。「顧客満足」をモットーに、今後も穀物物流のプロとして、ご満足いただける物流サービスの提供に努めてまいります。

### 株式会社Green prop

代表者：専務取締役 川添 憲二  
所在地：〒818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡1272-14  
TEL：092-922-1716 FAX：092-922-1961  
MAIL：info@greenprop.jp  
URL：http://www.greenprop.jp  
主要業務：  
■廃棄物処理の最適化事業（廃棄物収集運搬・中間処理、廃棄物管理トータルサポート）



■“CSR経営”サポート事業（CSR体制の構築、戦略的CSR活動支援、ステークホルダーとのコミュニケーションツール制作支援）  
当社の特色：  
私たちGreen prop グループは、持続可能な未来環境を共創するアライアンスパートナーとして、自治体様や企業様を中心に環境・CSRの側面からサステイナブルに向けたサポートを実施しております。また、すべての事業において「共に創る」ことをモットーとし、各種環境・CSRネットワークを活かし、最善のサステイナブルなカタチを追い求めます。

## 新会員のご紹介

### 株式会社 三協 福岡営業所

代表者：次長 桜木 努  
所在地：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-16-8-3F ITビル  
TEL：092-482-3330  
FAX：092-482-3331  
MAIL：fukuoka@fujikigroup.co.jp  
URL：http://www.sankyo-corporation.com



主要業務：一般港湾運送事業、国際複合輸送業、通関業、倉庫業、貨物輸送取扱事業、船舶代理店業、はしけ運送業、土地・建物・船舶の賃貸業、物流コンサル業、情報サービス業など

当社の特色：  
①AEO認定通関業者の当社に通関はお任せください！  
②沖縄行き冷凍貨物混載便輸送も当社へ！  
③国際・国内貨物の海上、陸送、航空輸送もOK!です。



### 株式会社 フジファイブズ



代表者：代表取締役社長 津村 賢治  
所在地：〒144-0052 東京都大田区蒲田5-33-5 山本ビル2F  
TEL：03-6715-7545 FAX：03-6715-7565  
MAIL：info@fuji-fines.co.jp  
URL：http://www.fuji-fines.co.jp  
主要業務：水素水サーバーメーカー卸・水素関連商材メーカー卸  
化粧品の開発及び販売・健康食品の開発及び販売

当社の特色：  
弊社は、創業以来20年間ずっと医薬品・サプリメント・化粧品を取扱い、お客様自身が結果に満足頂ける「健康と美にお役立ちする企業」として「結果」にこだわり続け、対面による情報提供とご提案を続けて参りました。2014年、水素水と出会い、その驚異的な水素の力を知り、モニター募集から試験販売を経て正式に販売を開始し、現在では多くのお客様の悩みに対し結果を出して参りました。そのような中で、お客様の声に耳を傾け、さらに安価で安全・安心な、より良い水素水サーバーや水素関連商材の開発を行っております。誰もか「ハッピーになれる商材を世の中に送り出す事」が私たちの使命です。

### 順豊 (エスエフ) エクスプレス株式会社

代表者：田中 茂幸  
所在地：〒135-0043 東京都江東区堀浜2-2-10 M.Kビル2F  
TEL・FAX：03-5677-3230 / 03-5677-2125  
MAIL：cs1\_jp@sf-express.com  
URL：http://www.sf-express.com/jp/ja/  
主要業務：中国発の国際宅配便事業。ワンストップのドアツードアサービスを提供。日中間の輸出入を中心に、低廉な価格で高品質なサービスを提供しています。



当社の特色：  
中国民間最大手の宅配便会社が開始した国際宅配便事業の日本法人です。2011年に東京、2012年に大阪にサービスセンターを開設し、2016年に福岡営業所を開設しました。中国内陸部も自社で配送する高品質なネットワークを強みとし、ワンストップのドアツードアサービスを展開しています。

現在は、日中間の輸出入にとどまらず、オーストラリアを含む東南アジア、アメリカ大陸、ロシア、欧州にも積極的にネットワークを拡大しています。



### 合同会社 あんしん生活

代表者：代表社員 箕輪 雅子  
所在地：〒812-0008 福岡市博多区東光1-2-8 内山東光ビル202  
TEL：092-415-1112  
FAX：092-415-1113  
MAIL：anshinseikatsu.toukou@gmail.com  
URL：http://あんしん生活.com  
主要業務：ネット通販事業・販売パートナー支援事業



当社の特色：  
あんしん生活は、日常生活にかかわる様々な商品の輸入販売事業を展開する会社で、物流事業を運営する一般社団法人障がい者自立支援協会のグループ企業です。私たちは、独自の商品仕入れと販売および物流体制を活かしてビジネスの拡大をはかりながら障がい者の雇用促進に貢献し、支え合うよろこびを分かち合う地域社会の実現を目指します。

### アジアパートナーパブリック株式会社



代表者：代表取締役 木村 英雄  
所在地：〒813-0034 福岡市東区多の津4-5-12 LIZビル2F  
TEL：092-409-9821  
FAX：092-409-9832  
MAIL：info@appc-ip.com  
URL：http://www.appc-jp.com/  
主要業務：アジア向け貿易業務 リサイクル業 不動産業  
旅行業 IT業など

当社の特色：  
福岡市東区に本社を置き、大阪、香港、深圳市に支店があります。設立して1年の新しい会社ですが、現在日本最大免税店LAOXへ様々な商品を提供し、来日の旅行者へ日本製品を販売しており、2020年東京オリンピック向け、商品を開発し、中国と日本の貿易業務を軸とし、パートナー企業様の要望にお応えできる多種多様なノウハウを持っております。日中の橋渡し役として、真の社会貢献をめざしております。



### 株式会社 クレステック 福岡事業所

代表者：所長 吉田 謙五  
所在地：〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル4F  
TEL：092-418-2361 FAX：092-418-2363  
MAIL：kengo-y@crestec.co.jp  
URL：http://www.crestec.co.jp/  
主要業務：取扱説明書等の技術文書を中心に、さまざまなコンテンツの企画・開発、ライティング、イラスト作成、データ組版、翻訳、印刷等。

当社の特色：  
1984年の創業以来、取扱説明書および、サービスマン向けの修理マニュアル等のライティングからイラスト作成、データ組版、翻訳、印刷等のテクニカルドキュメンテーションのビジネスをベースに事業展開してまいりました。国内12拠点、海外10か国18拠点のネットワークを活用し、川上のマーケットリサーチからドキュメント制作支援システム開発、川下である梱包設計および、製造やアフターマーケットの領域まで、トータルにサービスできる一気通貫の体制にて多くのソリューションを提供しております。

### 三宗貿易合同会社

代表者：代表社員 渡辺 久也  
所在地：〒814-0005 福岡市早良区祖原14-20  
TEL・FAX：092-841-3010・020-4623-9984  
MAIL：info@sanso-boeki.com  
URL：www.sanso-boeki.com  
主要業務：有機加工食品の輸入販売。主に、有機ココナッツオイル、有機アップルソース、有機アガベシロップを輸入し、全国の百貨店、食品スーパーなどで販売しています。当社は有機JAS認定輸入業者です。



当社の特色：  
有機加工食品の販売を通じて、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。輸入販売のみならず、独自レシピの有機加工食品を開発し、国内で製造しています。有機ゆず茶はITQi優秀味覚賞（本部：ベルギー）で2016年に最高の3つ星を、有機ジンジャーエールは2つ星を受賞しました。有機レモネードは国産初の有機JAS認証を取得した炭酸飲料で、世界的にも希少なオーガニックソーダです。今後は、これらの国産の有機加工食品を欧米やアジア諸国に輸出していきたいと考えています。



10月13日(木)、第69回福岡貿易会ゴルフコンペを、太宰府ゴルフ倶楽部にて開催しました。当日は曇天でしたが、暑さも和らぎ、絶好の気候のなか、総勢41名の会員の皆様などにご参加いただきました。初参加者も多く、また会員の皆様からも多数の豪華な景品をご提供頂き、非常に盛り上がるゴルフコンペとなりました。

次回は春に開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。



第19回

貿易英語ひとくちメモ

## 「端的に表現/発言する練習」

<兵法・英語二刀一流>末次通訳事務所 代表 末次 賢治

Hi there! Our dear Readers! How's everything?  
ビジネス場面で英語を使う際には、1)端的な表現手法と2)数値を表現に織り込む事です:

前回は「数値表現の練習」でした。今回は、★「端的にモノゴトを言う」練習:前回の宿題を考えました?英語でどう云うでしょう?

①海外ホテルに滞在中の貴方:従業員に質問:「すみません、こちらの水道水は飲めますか?」

[Excuse me. Can I drink this water?] と云う人が多いでしょうけども、これは良くないです。

[Can I ~?] 或いは、[May I ~?] と云っても、「そりゃ自分が飲みたければ飲みなさいよ」と回答が来ます。「端的に表現する」とは、誤解を割ける為に申さば、言葉を短くして云うのではなくて、【云いたい内容を的確に云う】との事。

「こちらの水道水は飲めますか?」とは「飲んで安全なの?」という事ですから、[Excuse me. Is this water safe to drink?] と言います。手前ミソですが、上記私訳のsafe to drinkが最も効果的な言い方です。

②博多駅構内で外国人から「すみません、福岡空港へはどうやって行くのでしょうか?」と尋ねられ、さあ、皆さんはどう英語で説明をしますか?先日、私は、実際に、博多駅隣のバスターミナルでの案内所でこの様に尋ねられ、次の様に対応しました。皆様にも是非お勧めの末次流!一番効果的な説明方法です!!

相手: Could you tell me how to get to Fukuoka Airport?  
私: Sure! It's very simple.

①Take the subway!

②Platform No1.

③Second stop from here.

④About 5 minutes.

※【博多駅⇒福岡空港】の案内は、上の4つを云えば良いですね。①地下鉄に乗りイ。②1番線に乗りイ。

③ここ(博多駅)から2駅目。

④所要時間はだいたい5分くらい。との案内。

手前ミソですが、この説明こそ端的な発言事例。短か目、しかし「ツボ」を押さえた説明です。

◆国内線⇒国際線の場合:次の通りです:

①You see a sky-blue shuttle bus there!

②Take a sky-blue shuttle bus.

③Second stop from here.

④About 10 minutes.

※最初のパタンの応用です。

①空色のシャトルバスがあるでしょ!

②それに乗って、③ここ(国内線)から2つ目。

④約10分。これは生き方案内の例ですが、諸事に付き、どんな場合でも、端的に物事の説明をするように取り組みましょう!!!

筆者は企業英語研修を現在実施中です。貴社も如何ですか?続きは次回に!!

質問は何なりとどうぞ! Thanks for reading.

質問等は fuku@eos.ocn.ne.jpへどうぞ!

## 福岡貿易会からのお知らせ

### 今後開催予定のセミナー

※予定につき変更の場合があります。会員以外の方の受講も可能です。

○ 貿易実務講座実践編 ※前回のご案内から日程が変更となっております。

【日時】 11月17日(木)~18日(金) 2日間 9:30~16:30

【会場】 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室

【講師】 (株)アースリンク 代表取締役 曾我 しのぶ氏

【内容】 貿易実務の流れの確認とロールプレイによる

送金取引グループワーク など

【受講料】 福岡貿易会会員:¥6,000/一般:¥12,000

○ 福岡貿易会会員交流会(年末交流会)講演会

【日時】 11月24日(木) 17:00~18:00

【会場】 ホテルニューオータニ博多 3階「芙蓉の間(華)」(中央区渡辺通1-1-2)

【講師】 第1部:中華人民共和国 駐福岡総領事 何 振良氏

第2部:対外経済貿易大学 西村 友作氏

【内容】 第1部:日本と中国の今および今後の展開(仮題)

第2部:中国経済のこれから(仮題)

【受講料】 無料

○ 貿易実務講座応用編

【日時】 平成29年2月1日(水) 9:30~16:30

【会場】 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室

【内容】 貿易実務業務の盲点とクレームの賢い対処方法

【講師】 中矢一虎法律事務所 代表 中矢 一虎氏

【受講料】 福岡貿易会会員:¥3,000/一般:¥6,000

○ 英文契約書講座応用編

【日時】 平成29年2月2日(木) 9:30~16:30

【会場】 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室

【講師】 中矢一虎法律事務所 代表 中矢 一虎氏

【内容】 上手な国際契約交渉の基本、貿易実務に必要な

各種契約の知識等

【受講料】 福岡貿易会会員:¥3,000/一般:¥6,000

○ 海外PLリスクマネジメント&輸出製品の取扱説明書の重要性

【日時】 平成29年2月23日(木) 13:30~16:30

【会場】 福岡商工会議所ビル4階 406会議室

【講師】 第1部:損害保険ジャパン日本興亜(株)

(SOMPOリスケアマネジメント(株)) 講師

第2部:(株)クレステック 講師

【内容】 第1部:海外における製造物責任と賠償リスクの概要

第2部:輸出製品の取扱説明書の重要性と国際規格

【受講料】 無料

○ 貿易保険&企業信用調査活用セミナー

【日時】 平成29年3月7日(火) 13:30~16:30

【会場】 福岡商工会議所ビルB1階 B1-a会議室

【講師】 第1部:(独)日本貿易保険

第2部:(株)クレディセイフ企業情報 講師

【内容】 第1部:貿易保険の概要と取引リスクのヘッジ

第2部:海外取引リスク低減に向けた

企業調査サービスの活用法

【受講料】 無料

●発行/公益社団法人福岡貿易会 ☎812-0011 福岡市博多区博多駅前二丁目9番28号7階

☎092(452)0707 FAX 092(452)0700

上海代表処 上海市淮海中路398号 博銀国際大廈9樓B2

☎86-21-6385-8815 FAX 86-21-6385-8806

●発行日/平成28年11月14日

●印刷/株式会社西日本高速印刷